出題のポイント（財務諸表論）

【第一問】－25 点－

問１（12 点）

討議資料「財務会計の概念フレームワーク」第３章及び第４章に基づいて、財務諸表の構成要素の定義と認識のルールについて、具体的な会計手続と対応させながら理解を問う問題である。

問２（13 点）

その他有価証券の会計処理を通して、包括利益、純利益及びその他の包括利益の関係を問う問題である。具体的には、企業会計基準第 25 号「包括利益の表示に関する会計基準」第４項、第５項、第９項及び第 31 項⑴、企業会計基準第 10 号「金融商品に関する会計基準」第 18 項、討議資料「財務会計の概念フレームワーク」第４章第８項、第９項及び第 12 項等が関連するが、問われている会計処理は難しいものではなく、その背後にある考え方を問うものである。

【第二問】－25 点－

問１（15 点）

企業会計基準第６号「株主資本等変動計算書に関する会計基準」、企業会計基準第５号「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」及び企業会計基準第１号「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」から出題している。⑴は、株主資本等変動計算書の表示について、⑵は、純資産の部を株主資本と株主資本以外の各項目に区分することの効果について問うている。⑶は、自己株式処分差益の表示について問うものである。いずれの問題も貸借対照表の純資産の部に関する知識を問う基本的な内容となっている。

問２（10 点）

固定資産に関する問題である。⑴は、自己所有の固定資産との交換により固定資産を取得した場合の取得原価の決定方法とその理由について、⑵は、埋蔵資源に適用される費用化の方法について問う問題である。いずれも固定資産に関する会計処理について、その背後にある考えを理解しているかについて問うものである。

【第三問】－50 点－

決算整理前残高試算表に対して適切な決算整理仕訳を反映させ、貸借対照表、損益計算書の適切な科目や数値を解答するとともに、個別注記表の一部数値の穴埋めをすることを要求する問題である。

具体的な内容は以下の通りである。

⑴　現金及び預金について、基本的な組替及び経過勘定の処理に関する理解を問うもの。

⑵　売上債権について、売掛金及び電子記録債権に係る修正並びに貸倒引当金に係る処理等に関する理解を問うもの。

⑶　有価証券について、「金融商品に関する会計基準」における評価方法等に関する理解を問うもの。

⑷　棚卸資産について、期末実地棚卸の結果判明した事項について必要な会計処理に関する理解を問うもの。

⑸　有形固定資産について、減価償却計算、資産除去債務及び「固定資産の減損に係る会計基準」に従った減損処理に関する理解を問うもの。

⑹　借入金に係る金利スワップの特例処理に関する理解を問うもの。

⑺　転換社債型新株予約権付社債について、会計処理に関する理解を問うもの。

⑻　従業員賞与について、賞与引当金の会計処理に関する理解を問うもの。

⑼　確定給付型の退職給付債務について、「退職給付に関する会計基準」の原則法に従った会計処理及び開示に関する理解を問うもの。

⑽　剰余金の処分及び「自己株式及び準備金の額の減少等に関する会計基準」に従った自己株式の消却に係る会計処理に関する理解を問うもの。

⑾　諸税金について、納付税額等の会計処理に関する理解を問うもの。

⑿　税効果会計について、「税効果会計に係る会計基準」における繰延税金資産の会計処理及び開示に関する理解を問うもの。